※令和４年度以降入学生用

学校番号	217

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	３単位	年次	１年次
使用教科書	「改訂版　最新　数学Ⅰ」　（数研出版）						
副教材等	パラレルノート数学Ⅰ　（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・数学Ⅰでは，中学校数学で学んだ内容の延長である単元が多く，復習と演習が大切となります。家庭学習（宿題等の課題）の時間を確保してしっかりと復習しましょう。定期的に宿題を提出することになるので，最後までしっかりと取り組んでください。
・授業では，課題に対して答えが書かれるのを待つのではなく自ら考え，また周りの人と協働して考える活動を行います。
・問題集（パラレルノート数学Ⅰ）については，まずは自分で解きます。ただ答えを求めるだけでなく，途中式や考え方も書くようにしましょう。また，各自で答え合わせをしてから提出してください。答え合わせをすることで，自分がどこでつまずいたかを知ることができます。
・何事も知ることが自分を変えることにつながっていきます。そして，知らないことを学習することが自分のためになるので，積極的に取り組んでください。

2　学習の到達目標

数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)　数と式，図形と計量，二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
(2)　命題の条件や結論に着目し，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力，図形の構成要素間の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，社会の事象などから設定した問題について，データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。
(3)　数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

※令和４年度以降入学生用

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	・数学を活用して事象を論理的に考察する力，事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善しようとしたりしている。
上に示す観点に基づいて，学習のまとまりごとに評価し，学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し，評価します。			

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
１学期	数と式・集合と命題	・数と式 ・実数 ・一次不等式 ・集合と命題	a: 数を実数まで拡張する意義を理解し，簡単な無理数の四則計算ができる。集合と命題に関する基本的な概念を理解している。二次の乗法公式及び因数分解の公式を理解している。不等式の解の意味や不等式の性質について理解し，一次不等式の解を求めることができる。 b: 問題を解決する際に，既に学習した計算の方法と関連付けて，式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりできる。 c: 不等式の性質を基に一次不等式を解く方法を考察しようとする。日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え，一次不等式を問題解決に活用しようとする。	・小テスト ・定期テスト	・定期テスト ・レポート	・ノート ・問題集 ・レポート

※令和４年度以降入学生用

2学期	二次関数	・二次関数とグラフ ・二次方程式と二次不等式	a: 二次関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。二次関数の最大値や最小値を求めることができる。二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解している。二次不等式の解と二次関数のグラフとの関係について理解し，二次関数のグラフを用いて二次不等式の解を求めることができる。 b: 二つの数量の関係に着目し，日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え，問題を解決したり，解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりできる。 c: 二次関数の式とグラフとの関係について，コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察しようとする。	・小テスト ・定期テスト	・定期テスト ・レポート	・ノート ・問題集 ・レポート
2学期 3学期	図形と計量	・三角比 ・正弦定理･余弦定理	a: 鋭角の三角比の意味と相互関係について理解できている。三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し，鈍角の三角比の値を求める方法を理解できている。正弦定理や余弦定理について三平方の定理と関連付けて理解し，三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。 b: 図形の構成要素間の関係を，三角比を用いて表現できる。 c: 図形の構成要素間の関係に着目し，日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え，問題を解決したり，解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりしようとする。	・小テスト ・定期テスト	・定期テスト ・レポート	・ノート ・問題集 ・レポート

※令和４年度以降入学生用

３学期	データの分析	・データの分析	a: 分散，標準偏差，散布図及び相関係数の意味やその用い方を理解している。 コンピュータなどの情報機器を用いるなどして，データを表やグラフに整理したり，分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりできる。具体的な事象における仮説検定の考え方を理解している。 b: 目的に応じて複数の種類のデータを収集し，適切な統計量やグラフ，手法などを選択して分析を行い，データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができる。 c: データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察しようとする。不確実な事象の起こりやすさに着目し，主張の妥当性について，実験などを通して判断したり，批判的に考察したりしようとする。	・小テスト ・定期テスト	・定期テスト ・レポート	・ノート ・問題集 ・レポート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度